

科目名	失語症Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30回	時間数	60時間 (2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕							
成人における言語障害について、失語症を中心として、定義、鑑別診断、症候、タイプや重症度、予後を理解すると共に、基礎的な評価法と記録、分析方法を身に付ける。							
〔授業全体の内容の概要〕							
失語症について医学的観点からその基礎となる領域について学ぶ。							
〔講師の実務経験〕							
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕							
失語症の基礎を身につける							
回数	講義内容						
1	失語症の定義、大脳構造の基礎知識						
2	高次脳の基礎知識、言語モデルの基礎知識						
3	言語のコミュニケーション障害、失語症状の基礎知識						
4	古典分類、皮質下性失語について						
5	失語症周辺の言語障害、その他の失語症						
6	言語聴覚士Shuellの失語分類						
7	評価の枠組み、評価の流れ						
8	インテーク面接、鑑別診断						
9	画像診断、言語治療の背景						
10	急性期・慢性期の言語治療						
11	治療計画、訓練の流れ						
12	言語療法理論的枠組み						
13	各種訓練法						
14	かな文字訓練法						
15	発語失行						
16	中枢神経系の説明						
17	中枢神経系の説明（各大脳動脈の走行、血管支配）						
18	中枢神経系の説明						
19	視野障害、超皮質性感覚失語						
20	伝導失語、超皮質性感覚失語						
21	超皮質性失語の特徴、失名詞失語の特徴						
22	文献「失語からみたことばの脳内機構」						
23	音韻・単語の音韻処理過程						
24	単音～単語の処理過程、センテンスの処理						
25	失語からみた言語の脳内機構						
26	皮質下性失語、交叉性失語、緩徐進行性失語						
27	失語症の読み書字障害						
28	失語症の読み書字障害						
29	失語症の周辺症状、純粋とは、純粋失読						
30	まとめ						
【 準備学習・時間外学習 】							
【 使用テキスト 】							
書籍名		著者名		出版社			
なるほど！失語症の評価と治療-検査結果の解釈から訓練法の立案まで-		小嶋 知幸		金原出版株式会社			
言語治療ハンドブック		伊藤 元信/吉畑 博代		医歯薬出版株式会社			
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】							
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							